

第2回赤城山検定(1級)結果とアンケート(2017年2月11日実施)

第2回赤城山検定(1級)結果

受験申込者数	11名
受験者数	5名
合格者数	2名 (40.0%)
不合格者数	3名 (60.0%)
平均点	60.4点
最高点	89点
最低点	34点

第2回赤城山検定(1級) 受検者内訳

性別	男子 3名、 女子 1名
平均年齢	65.0歳(61歳~67歳)

第2回 赤城山検定 (1級) 受検者のアンケート

1. 作文のワクが小さく、書きにくかった。
2. 漢字を覚えるのが大変であり、平仮名で良いのは助かっている。
3. やっぱり一級はむずかしい。文系は苦手です。

第2回赤城山検定（1級）問題と正解

I. この写真（棚橋氏提供）を見て、以下の文の（ ）内に語句を入れなさい。



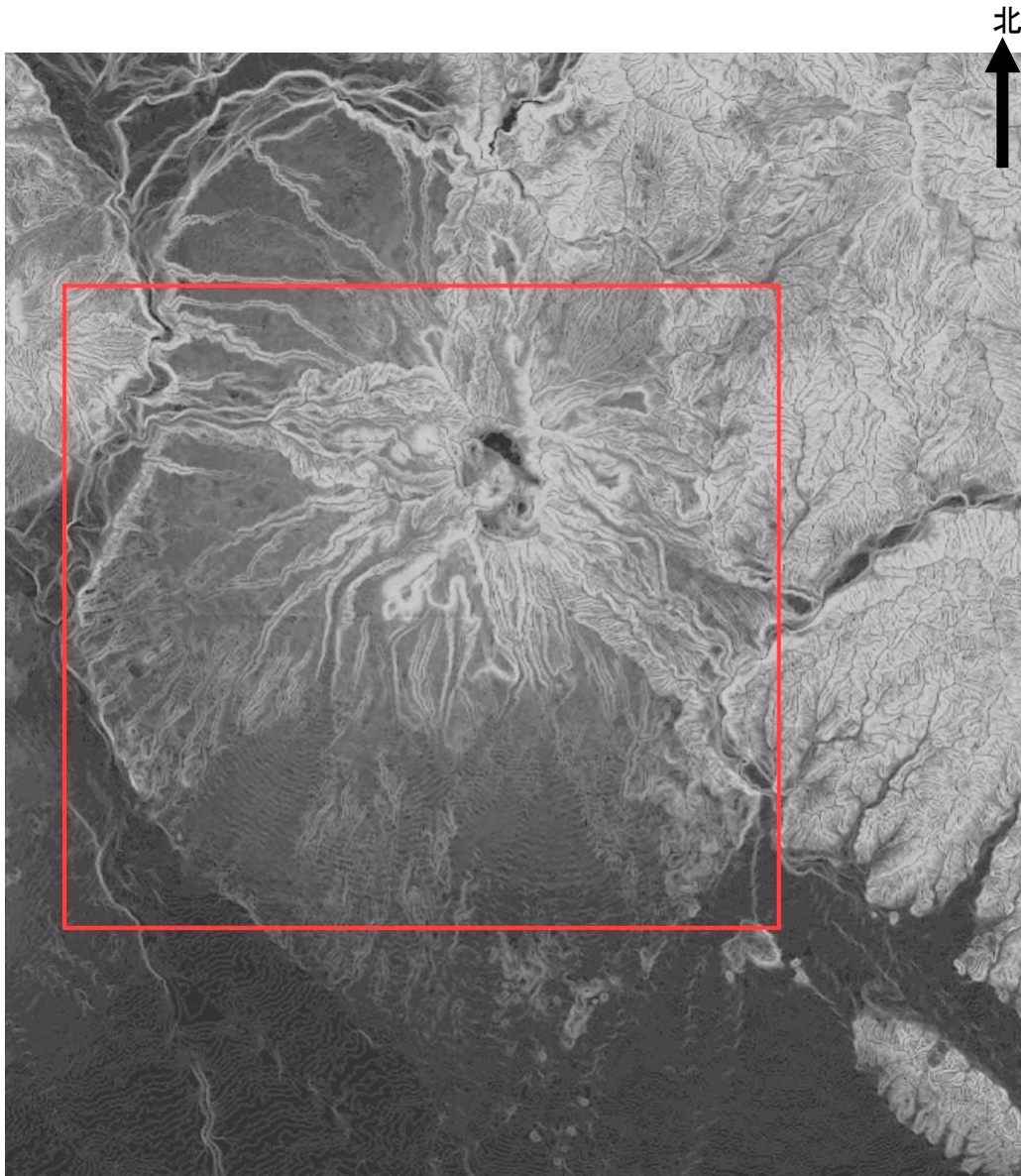
この写真は（ 1 ）から（ 2 ）方向（方角）を撮影したものである。中央のピーク名は（ 3 ）で、左右非対称で左側に比べて右側が大きく切れ落ちているのは（ 4 ）のためである。ピーク『3』と尾根続きの小ピークは（ 5 ）である。

登山者が下りていく登山道を進むと分岐点に到達し、そこにある道標には、右に進むと（ 6 ）、左に進むと（ 7 ）と書かれている。

中央のピーク『3』の右側遠方に聳える雪をかぶった円錐形の山は（ 8 ）で、その手前は（ 9 ）である。左側遠方の雪をかぶった峰々は（ 10 ）である。

- 1 長七郎山
- 2 西
- 3 荒山
- 4 地獄谷の噴火（によって崩壊した）
- 5 前浅間山
- 6 小沼
- 7 オトギノ森
- 8 浅間山
- 9 榛名山
- 10 八ヶ岳連峰

11. 下の図（国土交通省資料）は、赤城山の傾斜図である。白色部分は傾斜が急で、黒色部分は傾斜が緩いことを示している。この図を見て、赤城山の特徴を5つ挙げよ。



- 11 裾野が南側に大きく発達している。
- 12 溶岩流（舌状の地形）が何本か流れている。
- 13 東側には足尾山地があり、裾野の発達が阻害されている。
- 14 片品川が、南流から西流に変更されている。
- 15 南側と北西側に山麓扇状地が発達している。

（●西側の馬蹄形地形の中に溶岩ドームが多数ある。●西側は子持山によって裾野の発達が阻止されている。●南西麓や南麓に山体崩壊による土石が堆積した孤立丘（流れ山）がある。●八王子山塊・鹿田山の延長上に赤城山がある。）

【11～15は★順不同。カッコ内の記述でもよい。】

III. かつて、山麓から赤城山山頂の大洞に向かう際には、山頂カルデラのどの峠を越えたか。

- 黒保根地区 → (16)
- 梨木地区 → (17)
- 大胡地区 → (18)
- 渋川・北橘地区 → (19)
- 沼田・利根地区 → (20)

- 16 鳥居峠
- 17 茶の木畑峠
- 18 牛石峠
- 19 姥子（うばこ）峠
- 20 五輪峠（野坂峠でも OK）

IV. 赤城山という名前は麓から眺めた場合の山全体を指し、山頂付近にあるそれぞれの峰（ピーク）に対して名前がつけられている。以下に由来すると思われるピーク名を一つずつ挙げよ。

- 形状 (21)
- 農耕 (22)
- 宗教 (23)
- 気象・植生 (24)
- 用途 (25)
- 場所 (26)
- 人物 (27)

- 21 荒山、鈴ヶ岳、鍋割山、船ヶ鼻山
- 22 駒ヶ岳、鋏柄山
- 23 地藏岳、小地藏岳、薬師岳、前浅間山
- 24 黒檜山、小黒檜山
- 25 見晴山
- 26 出張山、北山
- 27 長七郎山、朝香嶺

【★いずれか1つでよい】

V. 以下の文章は覚満淵に関するものである。() 内に適する語句を入れよ。

覚満淵の名前は (28) 時代に、この地で比叡山延暦寺の高僧・覚満が法会を行ったという、南北朝時代に編まれた (29) の記述に由来している。

覚満淵は、かつては (30) の一部であったが、水面の低下で取り残されて湿原化した場所で (31) と呼ばれ、北東側には2~3mの厚さで泥炭層が堆積し、雨水のみで涵養される (32) 湿原がみられる。湿原内にある (33) は食虫植物で、覚満淵が栄養分に乏しい土地であることを示している。

かつて覚満淵には (34) の群落があり、7月に黄色い花で彩られた。しかし、ミヤコザサ(ニッコウザサ)の繁茂やシカの食害で数が激減してしまい、現在、シカ侵入防止ネットの設置、ササ刈りなどで、植生の回復が図られている。

1945年以前は (35) として利用され、群馬県花であるレンゲツツジの群落がある。

- 28 平安
- 29 神道集
- 30 古大沼湖
- 31 小尾瀬
- 32 高層
- 33 モウセンゴケ
- 34 ニッコウキスゲ
- 35 牧場

VI. 以下の文章の () 内に語句を挿入せよ。

赤城山の中腹には広範囲にわたって、群馬県木である (36) 林が広がっていた。本来は海岸ややせた土地で真っ先に自生する常緑巨木で、第二次世界大戦後、旧 (37) の村民が協力して植えたのである。1961年、県道前橋-赤城線(県道4号)、通称 (38) 沿いの標高500mの地で開催された (39) でも植樹された。しかし、(40) によるとされる被害が拡大し、ほぼ全滅してしまった。現在、植生の回復が図られている。

- 36 クロマツ
- 37 富士見村
- 38 赤城白樺ライン
- 39 第2回全国植樹祭
- 40 マツクイムシ(マツノザイセンチュウでもよい)

VII. 以下の文章は赤城神社に関するものである。() 内に適する語句を入れよ。

赤城神社は、平安時代に書かれた(41)によれば、上毛野国(かみつけのくに：群馬県の古式名)十二社の二の宮で、(42)格となっていた。

三夜沢赤城神社の鳥居は(43)型で、中門前には俵藤太(藤原秀郷)が献木したと伝えられる俵杉が3本聳えている。参道は、約4kmにおよぶクロマツ・アカマツとヤマツツジの並木が続いている。

三夜沢赤城神社から登った尾根上に、(44)と呼ばれる巨大な安山岩の自然石があり、磐座(いわくら)信仰の場所と考えられている。

前橋市二之宮町に二宮赤城神社があり、この地域は、崇神(すじん)天皇の第一皇子(45)の末裔である上毛野氏の支配地域の中心であったと考えられている。

赤城山頂の大沼の小鳥ヶ島に鎮座する大洞赤城神社(あるいは赤城神社元宮)は、大沼南岸にあった社殿が老朽化したため、1970(昭和45)年に現在地に移転されたもので、その社殿の額には(46)と書かれている。縁起では、信仰の対象となっていた仏は、大沼の(47)、小沼の(48)、神庫(ほくら)山の(49)で、この3つを赤城三所明神という。

前橋市富士見町小暮にある、大洞赤城神社一の鳥居は明神型で、その神額には江戸時代の書家(50)の書『赤城山』と書かれている。

- 41 延喜式神名帳
- 42 大社
- 43 神明
- 44 櫃石(ひついわ)
- 45 豊城入彦命
- 46 赤城大明神
- 47 千手観音
- 48 虚空蔵菩薩
- 49 地藏菩薩
- 50 角田無幻

VIII. 以下の文章は、赤城の「二人の主」と言われている猪谷六合雄・岩澤正作に関するものである。() 内に適する語句を入れよ。

猪谷家は代々 大洞赤城神社の神官を務め、同時に猪谷旅館を経営していた。猪谷六合雄は赤城山頂で最初に誕生した人物とされ、赤城山に滞在した際の体験から「焚火」を著した(51)をはじめとする多くの人々の世話をした。六合雄はイタリア・コルティーナ ダンペッツォ冬季オリンピックにおける(52) 競技で銀メダルを獲得した千春の父親である。さらに、自ら地蔵岳中腹に(53) を造り、当時の日本記録をうちたてた。

岩澤正作は神奈川県生まれであるが、明治 35 年に前橋中学校(現 前橋高校)に赴任以来、昭和 19 年に亡くなるまで、群馬で活躍した郷土史研究者であり、博物学者でもある。著書(54)の中で、上毛三山はそれぞれ魅力があるが赤城山が一番であるとして「殊に茫漠たる平野に向かって、特趣の裾野を長く曳けるは一層人目を惹きて、上毛名山の月桂冠を得たる所以ならむ」と記述している。2016 年、大洞赤城神社境内の(55)に、岩澤正作記念館が設置された。

- 51 志賀直哉
- 52 スラローム(回転)
- 53 ジャンプ台(ジャンツェ)
- 54 赤城山大観
- 55 赤城山資料館

IX. 以下の文章は赤城山に関する伝説の一つである。() 内に適する語句を入れよ。

佐波郡赤堀村(伊勢崎市と合併した旧赤堀町)の長者 赤堀(56)には1人の娘がいたが、16 歳になったとき赤城山に登り、小沼に入水した。娘はもともと、小沼の主の(57)だったのである。お供の腰元は(58)となり、小沼にすみついて娘を探しているという。

桐生市黒保根町の医光寺には娘が、小沼に入水する前に置いていったと伝えられる(59)が保管されているという。

月田(前橋市月田町)の(60) 神社境内には、登山道中に立ち寄り、馬を休ませるために鞍を置いたという「鞍掛石」がある。

- 56 道元
- 57 竜(龍)
- 58 カニ
- 59 帯
- 60 近戸

X. 赤城山とその周辺には日本の 100 選に選ばれている場所が少なくない。その名称と所在地（●●市▲▲町とする）を記入せよ。

	<u>名 称</u>	<u>場 所</u>
	「日本の滝百選」	(61) (62)
	「日本さくら名所 100 選」	(63) (64)
	「にほんの里百選」	(65) (66)
	「日本の歴史公園 100 選」	(67) (68)
	「日本の自然百選」	(69) (70)
61	棚下不動の滝	62 渋川市赤城町
63	赤城南面千本桜	64 前橋市苗ヶ島町
65	室沢の棚田	66 前橋市粕川町
67	大室公園	68 前橋市西大室町
69	荒山高原	70 前橋市富士見町

XI. 以下の文章は、赤城山の観光についての記述である。()内に適する語句を入れよ。

昭和初期まで地蔵岳直下に地獄谷温泉の旅館があり、(71)は明治28年7月1日から15日まで滞在し、『一口剣』を完成させた。さらに、この滞在中の様子は『地獄溪日記』として著され、後世の赤城を訪れる文人たちに影響を与えた。

現在、赤城山山麓で火山活動と直接関係する温泉は、南麓にある炭酸水素塩泉の(72)だけである。この温泉は、かつては(73)と呼ばれ、初代群馬県令の(74)が二人目の妻文(後に美和子と改名)と婚前旅行に出かけたとされている。

1950年代、赤城山の観光開発にあたった東武鉄道は1957年、(75)(利平茶屋駅から鳥居峠の赤城山山頂駅間の全長約1,100m、標高差約360m)を開設した。さらに、地蔵岳山頂まで、(76)と(77)を使って登れるようにした。しかし、現在のこれらの施設はすべて廃止されている。

渋川市赤城町南赤城山には(78)があり、森林セラピー・ステアリングコミッティより、「森林セラピー基地」に認定されている。

赤城山山麓の国道353号(柏崎市～みどり市)は東国文化歴史街道の愛称で呼ばれ、(79)ともいわれている。前橋市富士見町(当時は勢多郡富士見村)では、この道路が作られた昭和初期には開拓道路と呼んでいた。前橋市嶺町の嶺公園付近の国道353号を時速約40kmで東進すると、道路の舗装面に刻んだ細かい溝から発せられる音が、井上武士作曲の(80)となる。

- 71 幸田露伴
- 72 赤城温泉郷
- 73 湯之澤温泉
- 74 楫取素彦
- 75 赤城登山鉄道(ケーブルカー)
- 76 リフト
- 77 ロープウェイ
- 78 赤城自然園
- 79 赤城山南面道路
- 80 チューリップ

76 と 77 は順不同